

「日々の衛星画像の交代」のお知らせ

1989年12月から観測を続けてきた「ひまわり4号」(静止気象衛星4号：GMS-4)は、1995年6月13日に後継機である「ひまわり5号」(静止気象衛星5号：GMS-5)と交代し、その主たる任務を無事終えることが出来ました。打ち上げロケットの開発遅れにより「ひまわり5号」の打ち上げが当初の予定よりも遅れたため、「ひまわり4号」は、その設計寿命である5年を越えて観測を続けることになりましたが、無事に任務を終えることが出来たのは、ひまわり、2号及び3号において蓄積されたノウハウがあったからに他なりません。

6月13日から登場した「ひまわり5号」は、4号に比べ観測機能を強化しています。可視チャンネルの他に、4号までの赤外チャンネル(10.5~12.5 μm)を2

分割したスプリット・ウインドウチャンネル及び水蒸気チャンネル(6.5~7.0 μm)を搭載しています。簡単に言えば、これまでは2種類の写真で雲等の観測を行っていましたが、これからは4種類の写真が使えることになります。観測する写真、つまりデータの量が増えたことから、東京都清瀬市にある気象衛星センターの計算機システムが衛星交代に合わせて更新され、日々の衛星画像に登場する衛星写真を作成する装置も更新されました。「ひまわり5号」の日々の衛星画像には、これまでの「ひまわり4号」の雲の見え方に最も近い写真(チャンネル)を選んでいきます。

(気象庁気象衛星センター 木川 誠一郎)